

#03_柔らかさには自信があります♪ お隣さんの甘やかし授乳手コキ&密着交尾

//くるみの部屋

「あ、起きましたね～」

「お隣さん、おはようございます～」

「...覚えていないんですか？」

「今日は相当お疲れだったみたいで...フラフラで帰ってきたので～」

「私の部屋に上がってもらって、膝枕したらすぐに眠っちゃって...」

「本当、お疲れだったんですね～。ぐっすりでした～」

「いえいえ、気にしないでください～」

「眠っていたと言っても、1時間位ですし」

「私も、お隣さんの寝顔を見られて楽しかったですし。ふふっ♡」

「今日もお疲れ様でした」

「たくさんたたくさん、頑張ってきたんですね」

「とっても偉いですよ～」

「でも...本当に無理はしすぎないでくださいね？」

「お隣さん、頑張りすぎるところがありますから...」

「前にも言ったように...私のこと、頼ってくれて、いいんですからね」

「だから...今日も...溜まったもの、全部吐き出していきませんか？」

「お隣さん...今日もこんなに...大きくしちゃってますし～」

「疲れた身体、癒しちゃいますよ♡」

「はい、お任せください♡」

「それじゃあ、ズボンの方...降ろしちゃいますね」

「ふう、はあ...脱がせますよ～」

「ふふっ...今日もこんなに大きく...んんっ♡」

「膝枕をしているので、このままの体勢でやっていきますね」

「でも、このままだとお隣さんが退屈になってしまうかもしれないので～」

「こうして...」

「ふう...んっ、んっ...」

「ふう...ふふっ」

「こうすれば、おっぱいを自由にできますよね？」

「柔らかさには自信があります♡」

「好きなだけ触っていいですからね～」

「んっ♡」

「はい...いいですよお。そんな感じです」

「もう少し強くしても、大丈夫ですからね～」

「ふう、ふう...それじゃあ、私の方も...始めていきますね～」

「ふう、ふう...んんっ、ふっ、ふう...ふう...はあ、ふう...」

「はあ、はあ...この前の時も、おちんちん...とっても元気でしたけど...」

「今日もすっごく元気...ですね♡」

「んんっ、ふっ、おっぱいに触れてるから...なのでしょうか？」

「喜んでもらえているのなら、嬉しい...ですっ♡」

「んっ！ ひゃっ...んんっ！」

「ごめんなさい、お隣さんの指が、敏感な所に当たって...声、もれちゃいました」

「んんっ、ふっ、ふっ...いえ、平気です...むしろ気持ちいい...ですし♡」

「お隣さんの好きなように...どんどん、触ってくださいねえ♡」

「ふう、ふう...んんっ、んっ、ふっ...はあ、はあ...んんっ...んん～...」

「お隣さんの指...気持ちいいです♡」

「はあ、はあ...んんっ、ふっ...はあ、ふう...♡」

「触られてるだけで...私も、幸せに...んんっ、なってしまいます♡」

「はあ、はあ...ふう、んんっ♡ はっ、はっ...ふう...♡」

「お隣さんは...気持ちいいですか？」

「ふっ、ふう...この前みたいに...触ってみてるんですが...んっ♡」

「他の触り方も、試してみようかな？」

「ふう、ふう...お隣さん♡ もっとここを攻めて欲しいとか、

そういう要望があったら、言ってくださいね♡」

「んんっ♡ ふっ、ふう...ふう...んふっ♡」

「はっ、はあ...んんっ、ふっ...んんっ♡」

「気持ちいい～気持ちいい～ですねえ♡」

「お隣さんの先から、透明なお汁、出てきましたよ♡」

「もうすぐ出せそうなんですネ〜♡」

「私も、気持ちのいいお射精してもらえよう、頑張りますネ〜

んっ...ふう、ふう...ふう...♡」

「おっぱいも、もっと触って...いいですからネ〜」

「んんっ、私も...感じちゃって、先っぽがツンってなっちゃってますし...」

「触るだけじゃなくて吸っても...大丈夫ですからネ♡」

「はいっ...おっぱいは出ませんが、ちゅーちゅーってしたら、

きっと楽しいですよ♡」

「んんっ、ですので、はいどーぞ」

「んんっ！ ふあっ、はあ、はあ...ふう...んんっ♡」

「いい...とっても...いいですよお♡ お隣さんの口...で吸われて♡」

「はあっ...はっ、はあ...んんっ♡ とっても、気持ちいいです♡

ふう...んんっ♡」

「んんっ！ はあ♡ はあ♡ はあ♡ ふう♡」

「お隣さんに気持ち良くしてもらった分っ...んんっ♡」

「私も頑張らないと...んっ...ですねえ♡」

「はあっ、はあ、はあ、んっ♡ んんっ、ふう...ふう...はあ...んんっ...♡」

「んんっ、お汁、どんどん溢れてきてますねえ♡」

「おちんちんもカチカチで熱くなっテ♡」

「気持ちいいんですねえ♡ このスピードで、最後までいっちゃいましょうか♡」

「おっぱい吸いながら、いつでも、出しちゃっていいですからネ♡」

「んんっ、はあ、はあ...ふう...んっ、ああ♡ はあ、はあ、ふっ...んんっ♡」

「ふう...ふう...んあっ♡ ふふっ♡ 吸う力...強くなってきた♡」

「おちんちんも、ビクビクしてるし...そろそろ、イきそう...なんですか？」

「んんっ♡ はふう、んっ♡ んっ♡ んんっ♡」

「いいです...いいですよおー...おっぱい吸いながら～私のお手々の中で...

溜まってる精液を...全部ぜーんぶぴゅっぴゅしちゃってください♡」

「お隣さんのカッコいいお射精...見せてください♡」

「んっ、ふう、ふう...ふふ、それじゃあ...お隣さんのお射精までえ...さーんっ♡」

「んんっ...はっ、はっ...はあ...に～い♡」

「ふう、んっ♡ ふう、はあ...いーち...♡」

「...んんっ、はあっ♡ はっ、はっ♡ ぜーろ♡」

「ぴゅっぴゅっぴゅ～～♡」

「んっ♡ 熱いのが...手につ...♡」

「んんっ♡ 全然、止まりそうにありません♡

「手から、こぼれて...ふう、ふう...ふうう...♡」

「ふう...たくさん、出せましたね♡」

「とっても、カッコ良かったですよ♡」

「ん...でも、お隣さんのまだまだ元気...みたいですわね〜」

「あんなに出したのに...すごいです♡」

「その...お隣さん。私も、おっぱい吸われて...興奮してきちゃったので...」

「もう1回...今度はおまんこを使って...おちんちんのマッサージ、しませんか？」

「ふふっ♡ ありがとうございます」

「それじゃあ、少し体勢を変えましょうか？」

「お隣さん、起き上がってもらっていいですか？」

「私も、準備しちゃいますわね...」

「ふう、ふう...」

「お隣さん♡ 準備、できましたよ♡」

「はあ、ふう...ふふ♡ 思わず抱きしめちゃいました」

「ごめんなさい、私...とってもエッチな気分になっちゃってて...」

「さっきお隣さんにおっぱいを吸われて、ここがこうなっちゃったんです」

「んんっ♡ はあ、はあ...1人でしてる時は...

こんな風には、ならないんですよ？」

「お隣さんに触られてるって思ったから...こうなっちゃったんです♡」

「ふう、ふう...お隣さんを見てると、幸せで...

エッチな気持ちになっちゃうから♡」

「お隣さん♡ 私が目、見てください♡」

「はあ...んっ、ちゅ♡」

「ふふっ...♡ ちゅーしちゃいました♡」

「ふふ、キスには人をリラックスさせて、幸せにする効果があるんですよ？」

「だから、しておいた方がいいかなって♡」

「んっ♡ でもこれは...それ以外の理由も、あったり...するんですが...」

「んちゅっ、ちゅっ...ちゅうつ、ちゅっ...ちゅぶっ、ちゅっ♡」

「はあ、はあ♡ 幸せです♡ もっともっと、ってしたくなっちゃう♡」

「お隣さんは、どうですか？」

「もっと、もっとしたくなりませんか？」

「ちゅっ、ちゅぶ...ちゅうつ...ちゅっ、ちゅっ♡」

「はあ、はあ...♡ んちゅっ、ちゅっ、れる...れるちゅ♡ あむっ...んちゅっ♡」

「れる、れる...♡ おとなり...さあん♡ れる、れるれっ...

むちゅっ、はむっ、れる、れるれろ、れろちゅう...♡」

「はあ、はあ♡ ふふ、お隣さんのおちんちん、ちゃんと元気になりましたね♡」

「んっ♡ じゃあこのままの体勢で...挿れちゃいましょうか♡」

「んっ...んんっ...！ ふふっ♡」

「はあ、はあ...それじゃあ...いきますよ～」

「せえ～のっ！」

「んっ♡ んんんんんっ〜っ♡」

「ふう♡ ふう♡ はあ...ふふふっ♡」

「繋がっちゃいましたね、お隣さん♡」

「私の中はいかがですか？」

「お隣さんにマッサージをして、準備万端なおまんこ...気持ちいいですか？」

「ふふっ、ここからは〜2人で...スッキリしましょうね♡」

「じゃあ、動きますね♡」

「んんっ♡ んっ♡ んっ♡ んんっ♡ はふう♡」

「はあ、はあ...♡ お隣さんのおちんちん♡ んんっ、ふう、ふう...はふう♡

気持ちいい...です♡」

「んんっ♡ 私の中っ、んっ♡ マッサージしてもらっちゃってるみたい♡」

「はあっ...んんっ♡ ふう、ふーっ...んんっ♡

はあ、はあ...んっ、はうう...んっ♡ はあ♡」

「んっ...そこ、いい...んんっ♡ はあ、ふっ、ふうっ...んっ♡ はあ...♡」

「んんっ♡ は、はうっ...んっふうう...私も、んっ♡ 頑張らないと...ですね♡」

「んっ、んっ...こうして締め付けて...ん、おちんちんと、おまんこを♡

もっと密着させちゃいます...んんっ♡」

「んんっ♡ はあっ！ んっ♡ は、は、んんっ♡ んふ、んっ、んんっ♡」

「ああ...あっ、んっ、んっ、あんっ！ はあっ...んんっ、はあ、はあ、はあ...♡」

「ふふっ♡ 密着させたら...もっと気持ち良くなっちゃった♡

んっ、はあっ、あんっ♡」

「んっ、んんっ♡ でも～...んっ、お隣さんも...

気持ち良くなってくれてるようで...んっんっ...良かったです♡」

「だっておちんちん、どんどん膨れてますし...♡」

「お顔も、とっても気持ち良さそうですよ～♡」

「とっても...可愛い♡」

「はあ...はあ...♡」

「んっ...♡ ちゅっ♡」

「ちゅうつ♡ んちゅっ♡ んんっ♡ ちゅっ、れる...れるちゅ♡

んふっ♡ んっ♡」

「ふっ、ふう、ふうー...んんっ♡ れるれる...れるぷちゅ...はあ♡

んっ♡ ちゅりゅ...れる、れる...れろりゅ...♡」

「んっ♡ はあ、はあ♡ お隣さんの顔を見てたら...んんっ♡

キス、したくなっちゃいました...♡」

「もう1回...もう1回お願いします♡」

「んちゅ、ちゅぶ...れるれる...れる♡ はあ、ふう、ふう...♡ んっ♡」

「んちゅ、れる...れろれろ...♡ れる、れる、んんっ♡ れろ、ぷちゅっ♡」

「はあ♡ んっ、ふっ...ふうっ♡ ふっ♡ んんっ♡ はっ、はあっ♡

はあふう♡」

「んんっ...お隣さん♡ お隣さん♡」

「気持ちいい...ですね♡ んんっ♡ はあ、はあ...んっふう...♡」

「んあっ♡ はあっ♡ んんっ♡ はあ、ふう、ふう...んんっ♡」

「んっ♡ んんっ♡ はっ、はあ、はあ...♡ ふっ...んんっ、はあ♡

んっ...んんっ♡」

「んんっ...はあ、はあ、お隣さん...んんっ♡

そろそろ...出そう、なんですかあ♡」

「ん...なんとなく、そういう...顔をしているって...んんっ♡ 思っ♡」

「私も...はあっ♡ ふうっ♡ そろそろ...イツちやいそうなので...！」

「一緒に...イキませんか？ んっ、んっ、はあ♡」

「はい♡ それじゃあ...一緒に...んっ♡

一緒に、気持ち良くなりましょう...ね♡」

「んんっ♡ んっ！ んっ！ あっ♡ あっ、はっ、はあ♡ はあんっ...んっ！」

「ふう、ふう...んんっ！ 激しく...したらあっ♡

んんっ、1番奥に...当たってえ♡ んっ♡ はあっ、はあっ♡

ふうんっ...んんっ！」

「あっ、ああっ...んあっ♡ はあ、はあ♡

ふうっ...これ...んんっ！ すごい...来ちやいそう...ですう♡」

「はあ、はあ♡ んんっ、んっ、んっ、んんっ♡ んっ...！」

「お隣...さん♡ お隣さあん...♡ んんっ！ 出そう...出そうなんですねえ♡」

「んんっ♡ いいですよお♡ そのまま出して...出してください♡」

「私の中で...お隣さんのを...全部ビューってしちゃってください♡」

「んんっ♡ 言ったでしょう♡ 一緒に...気持ち良くなりましょうっ♡」

「私っ...んんっ♡ あっ、んっ、んっ♡

お隣さんの精液を...中に、出してほしいんですっ♡」

「だからっ...んんっ！」

「出して、くださいっ♡ たくさん、たくさん...私の...おまんこにい♡」

「んんっ！ はあ、イク...イキます...んんっ♡」

「んんっ！ お隣さんも、一緒に...イキましょう...んんっあっ！

はうっ！ んんっ！」

「あっ、あっ...すごい...来るっ...んんっ♡ イク...イクイクイク...♡」

「んんっ...あああああ〜っ♡」

「はあ、はあ...んんっ♡ お隣さんの...たくさん、熱い...♡ です♡

んんんっ♡」

「はあ...んっ、はあ、はあー...はあ、ふう...♡」

「お隣さん、ありがとうございます♡」

「たくさん、気持ち良くしてもらっちゃいました♡」

「お隣さんも、いっぱい出せたようで...良かったです♡」

「ん...はあ、ふう...ちゅっ♡ んんっ♡」

「またいつでも...声かけてくださいね...♡」

「私は...お隣さんのためなら...なんでもしますから♡」

「はい♡ 約束です♡」